

平成27年度第3回 地球温暖化対策実行計画改訂部会 議事要旨

日時：平成27年10月27日（火）午後1時30分～4時

場所：市役所第2庁舎3階304会議室

出席委員：

佐藤部会長、金森委員、春田特別委員、細井特別委員

事務局（環境政策・放射能対策課）：

染谷環境政策・放射能対策課長、片浦環境政策係長

遠藤主査、渡辺主任主事

傍聴者：0名

議題：

- 1 地球温暖化対策実行計画（事務事業編）について
- 2 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について
- 3 その他

資料：

- 1 事務事業編について
 - ・資料1 目標設定の考え方
 - ・資料2 実行計画（事務事業編）（素案）
- 2 区域施策編について
 - ・資料1 審議事項
 - ・資料2 BAU推計による2030年度までの排出量予測
 - ・資料3 環境基本計画策定時のアンケートの結果

| 発言者 | 要旨 |
|-------------------------------|---|
| (議題1) 地球温暖化対策実行計画(事務事業編)について | |
| ～事務局より、当初策定予定を延長すること、目標値3案の提示 | |
| 春田委員 | 確認だが、廃棄物からの排出量はプラ量だけで算定するのか。 |
| 事務局 | CO2に関してはそうなる。 |
| 春田委員 | 総排出量で議論するのではなく、廃プラの1人当たり発生量で議論するのか。 |
| 事務局 | 焼却量×プラ混入率で算定し、廃棄物については人口増を勘案する。人口は増えているが、処理量は横ばいから減少している。しかしプラ混入率は増えているため分別の徹底を啓発していく必要がある。 |
| 春田委員 | 廃棄物の設定が1人当たり2%・3%では甘いのではないかと感じる。H21～H25で燃やすごみの量は年率3%程度減少しており、もっといけるのではないかと。 |
| 事務局 | 1人当たり2gというのも子どもから高齢者まで全住民が減らすことを考えると決して小さくはないものとする。 |
| 佐藤部長 | 昔と違い分別の意識は大分進んでいる中でどこまで目指すかが問題となる。また分別の徹底がさらに進んだときに必ず頭打ちになるときが来るので、その意味では現実的な数字ということか。 |
| 春田委員 | 廃棄物の総量が一定で人口が増えれば、原単位は自動的に減って目標は達成してしまう。 |
| 佐藤部長 | 総量が一定という前提はどうなのか。 |
| 細井委員 | プラスチック製品の分別と抑制が必要という中で、プラスチック製品が生活の中で増加していることは感じている。 |
| 事務局 | 廃棄物の発生抑制自体は、一般廃棄物処理基本計画で定めている。 |
| 佐藤部長 | セルロース系のプラスチックなども出始めているがこういったものの算定は別に行われているか。 |

| | |
|------|---|
| 事務局 | 生物系由来のプラスチックが出ていることは把握しているが、現実的に別に分別したり、あるいは単独の排出係数を用いての算定などはしていない。 |
| 細井委員 | 1人当たりの目標は赤ちゃんから高齢者までの全員にかかっている数値目標である上、これからの転入による人口増は30～40代のファミリー層など廃棄物を多く出す層を想定していると思うのでこの中でどれだけ数字を出していけるのか。 |
| 事務局 | 現実的には、委員のおっしゃるとおり全年齢にかかる数値であり、また多くの方に分別を頑張っていていただいている中で、現在意識していない方をどれだけ推進できるかという面で1人2%は結構厳しい数字だとは考えている。 |
| 佐藤部長 | 現実的に達成できない目標となってしまっては仕方ないのでこのあたりも勘案する必要がある。 |
| 春田委員 | 私は案3が適当ではないかと思う。着目したのは燃やすごみの量で、これは確実に3%強減っているなので、この中で2%は甘いのではないかと思う。 |
| 事務局 | 説明が十分でなかったが、処理量の中の資源ごみがH24から集団回収として扱われるようになり、ここから除かれているため、燃やすごみに3,000トン程度影響している。 |
| 金森委員 | 市民が資源として処理されると思っているものが燃える方に回っている部分が多いというのは前回の審議会で出た話で、汚いものなどを除くことで資源化率が上がるという話も前回出た。その中で、こういった部分の改善により案2であろうが3であろうが簡単に達成する可能性は大いにある。不適切な分別が全体に与える影響の大きさをきちんと周知することを前提に、最低限のレベルとして案2とし、その都度より高い目標にシフトすることがよいのではないか。市民には、適切な分別とその責任を市がきちんと周知することが必要。またこの事務事業編でなく、市民の目に触れる区域施策編でも取り上げていく必要がある。 |
| 細井委員 | ちょっと外れる話だが、コンビニのゴミ箱のプラなどは |

| | |
|-----------|--|
| | きれいになっていないと思うが、あれもきれいにしないと いけないのか。 |
| 金森委員 | そこは気になっていたのだが、どの程度まできれいにし ないといけないのか。例えばご飯粒がついていたらダメと かどこがラインなのか。 |
| 事務局 | まずコンビニのごみは産業廃棄物でクリーンセンターに 搬入されるものではなく、資料の 3,000 トンにも含まれて いない。プラごみのきれいさについては、容リ協会という ところの基準でランク付けされるものになっている。 |
| 佐藤部会 長 | 資源化に回せる程度のきれいさというのがどの程度かと いう基準は市が周知して行ってほしい。春田委員は案 3、 金森委員は案 2 ということだが細井委員はどうか |
| 細井委員 | 啓蒙・啓発を徹底していくということを条件に案 2 でよ いと思う。 |
| 佐藤部会 長 | 2 % で進め将来的に 3 % を目指せるような方向で今回は 案 2 とし、審議会に諮りたい。続いて修正があった素案に ついてはどうか。 |
| 事務局 | 17 ページについては先ほどの廃棄物について啓発的な ものを入れたい。 |
| 春田委員 | 15 ページの燃料ごとの目標達成のために 16・17 ページ のどの項目でどの程度削減できるのか表記をしてほしい。 この内容で 10% 達成ができるのか。 |
| 事務局 | 積み上げによる目標値の算定は正直困難と考えており、 重点プロジェクトと 20 ページの具体の行動によりできる 限りの削減を目指すことになる。その行動 1 つで何%削減 というのは算出できないと考える。現行計画でも ESCO の ように新たに発生したものの効果などもありこうした新た な取り組みを予測するのは現時点では難しい。年度初めに 環境マネジメントシステムにより、部の目標、課の目標、 各々の仕事と環境影響を考える個人の取り組みを設定するな ど全職員が取り組んでいる。 |
| 春田委員 | 4 ページの外部監査について市民監査を提案したい。体 |

| | |
|---------------------------------|---|
| | 制や個別行動は 2 期と変わらず、目標達成のために入れ込むと良い。 |
| 佐藤部長 | 現在も市民からの意見を受け入れていないわけではないと思うが、別に市民監査を入れることで目標達成に寄与するのか。 |
| 細井委員 | 計画内容をよく理解していないと進捗評価を行うのは難しい。 |
| 事務局 | 市民からの意見を受け入れる体制はあり、また新たに目標未達の部局に対しフォローアップを行うことを記載した。また変更点として審議会への進捗状況の報告などを新たに位置づけた。 |
| 春田委員 | もっと細かいデータを共有して例えば全学校を細かく見ていけば新たな方策も出てくる可能性がある。 |
| 佐藤部長 | 審議会への報告、審議を定期的に行うことで現状の表記とし、必要があれば有識者等の意見を聴取するということとしたい。 |
| (議題 2) 地球温暖化対策実行計画 (区域施策編) について | |
| ～事務局より説明 | |
| 佐藤部長 | (1 件ずつ) 審議事項①: 対象ガスを二酸化炭素とすること、審議事項②: 計画期間を 2030 年度まで延長し 2020 年を短期目標、2030 年を中期目標とすること、審議事項③: 算定方法、基準年度は現行計画と同様とすることによいか。 |
| ～(各項目) 異議なし～ | |
| 事務局 | 目標値について、試験的に国の 2020 年 3.8%、2030 年 26% 削減目標の 1 人当たりの削減率を単純に流山市に当てはめ、総量に逆算してみた。2030 年は 1 人当たり 18.1% 削減で総量 4% 削減になった。2020 年は同じく 1 人当たり 0.936% 削減だが総量は 11.7% の増加となった。 |
| 金森委員 | 全体で 2030 年 26% 削減といっても、家庭や業務の内訳で見るともっと厳しい数値が出ると思う。この試算ではちょっと数字的には足りないと思う。先に 1 人当たりの試算を提出しているが、部門別等の考えを取り入れても良いと |

| | |
|------------------|---|
| | 思うが、数字は極端な言い方をすればどの当たりにも出せるが、按分法で出す限り結果に市と市民の頑張りは反映されない可能性はある。 |
| 事務局 | 部門別に分けようとしたが、業務や産業の分母になる床面積や出荷額は国の数値は見つからず割り返せなかった。 |
| 金森委員 | その数字は出ていないと思う。 |
| 春田委員 | 数字を頑張っ設定しても金森委員もおっしゃるように按分法だと市民の頑張りが見えなくなる可能性は高い。施策に重点を置いたほうが良い。 |
| 金森委員 | 最終的には個々の家庭がどこにエネルギーを使っている、どこを中心に削減ができるのか気付くことができるような啓発版を作ることも考えておくべき。 |
| 春田委員 | どうしたら一般消費者に家電などの買い換えを促せると考えるか。 |
| 金森委員 | 一般の方と話すときは冷蔵庫などでは10年を一つの目安に話している。10年を超えていけばエネルギー的にも廃棄物的にも買い替えの方がよい。 |
| 佐藤部会長 | 目標値についてはいくつかのシナリオを示してもらえると良い。 |
| 春田委員 | 事務事業編に戻ってしまうが、区域に示されているくらいの事業を示したらいかがか。 |
| 佐藤部会長 | バランスもあるのでそのあたりを考慮して事務局で対応されたい。 |
| 春田委員 | 次回は区域施策編のみとなるのか。 |
| 事務局 | そうなる。そこで12月8日の審議会前に目標値等について審議いただきたく、11月下旬に再度部会を開催したいがいかがか。 |
| ～11月27日（金）9時とした～ | |